

植物による癒し

環境療法 (Milieu Therapy) と園芸療法 (Plants Assisted Therapy)

東京農業大学農学部バイオセラピー学科
園芸(植物介在)療法学研究室 浅野 房世

はじめに

園芸療法 (Horticultural therapy) という言葉が、日本において正式に紹介されたのは、1990年である。この言葉は、治療現場ではなく園芸関係である生産者・小売業、あるいは造園関係者などから、注目をあびることとなった。しかしヨーロッパでは、「園芸療法」という名称こそ使われなかったものの、古くは15世紀より園芸を患者の治療に活用する方法は存在した。

今回は人間を取り巻く空間の質に視点をおき、環境を療法的活用とする環境療法 (Milieu Therapy) を説明し、とくにその環境の中に植物を介在させることによって可能となる園芸療法 (Plants Assisted Therapy 注) を説明したい。

—癒しということば—

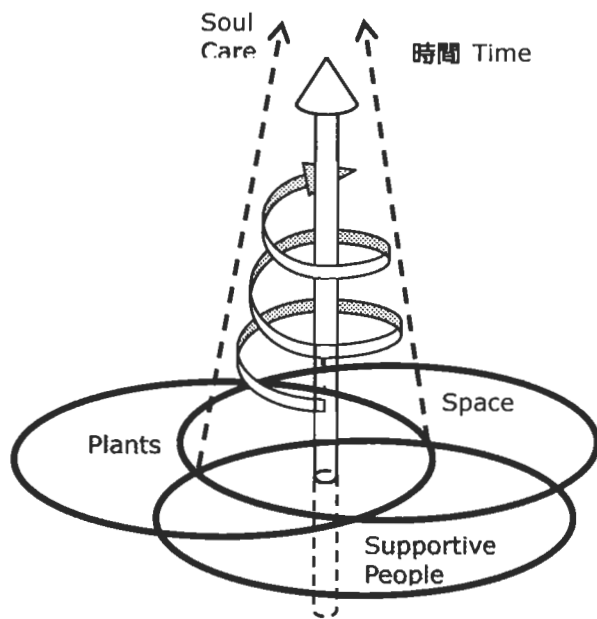
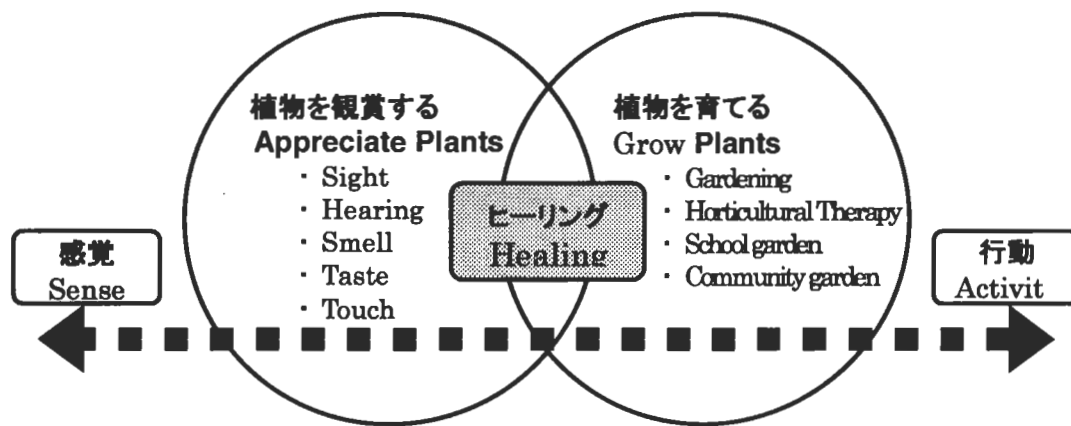
癒しという言葉、頻繁に耳にするようになり、昨今は「癒しブーム」といわれている。しかし1990年までは、書籍名に「癒し」という言葉を使ったものは、立川らのまとめた「癒しのトポス」という書籍の他は、わずかに出版されているにすぎない。しかし90年代になると増加し続け、1999年には流行語大賞に選ばれるまでの日常的な言葉に変化した。「癒す」という言葉は、本来は医学や宗教の中で使われてきたが、一般的に使用されるようになったのは、阪神淡路大震災 (1995年) 以降のことである。

癒し (Healing) の語源は、Whole (全体) と同じであり Health とも共通性を持つものである。「癒し」とは、人間が生まれながらに、持っている“生きてゆく力”が、何らかの外圧によって、歪みを生じたときに、それを元に戻すプロセスであるといえる。

—人は植物から癒されるか—

ヒーリングミュージック、ヒーリングアートなど、様々な癒しの手法が解説されているが、ここでは癒しが、植物から得られるか、また得られるとしたら、それは何故かについて考えてみたい。

上記、環境療法と園芸療法に視点をしぼり、植物による癒しを論じたい。



Plants Assisted Therapy